

川里地域の

指定文化財





ひろた りゅうとうまい  
**広田の龍頭舞(ささら)**

■広田地内

広田のささらは、別名「龍頭舞」といって頭に龍頭をかぶって舞う獅子舞である。毎年10月15日鷲栖神社に五穀豊穡と悪魔除けを祈願して奉納されている。龍頭舞に先立ち子供達による「花棒」と呼ばれる棒使いが奉納されるのが特徴である。歴史は古く、同神社に残る古文書によれば、寛永16年(1639)に始まったと伝えられている。

(昭和50年12月19日指定)



うんしょうじ ほんおんぐ ほんしょう うんぼん  
**雲祥寺の梵音具(梵鐘・雲版)**

■雲祥寺(上会下228)

梵鐘は、正徳6年(1716)の銘があり、妙法蓮華経全文9万9千9百余字が刻まれている。近づいて見なければ分からないほど小さな文字で、鐘全体に彫ってあるのに驚かされる。高さ184cm、口径94cm。

雲版は、寺で食事などを知らせるために打ち鳴らした、非常に珍しいものである。作成年は、明徳5年(1394)で「武州賀村県医王山東光禅寺常住 住持比丘雪庵希明置之 明徳五年甲戌五月念五日」の銘がある。縦49.2cm、横46.6cm。

(昭和51年9月20日指定)



あらいけ おおえのき  
**新井家の大榎**

■新井家(広田 2975)

樹齢推定500年といわれ、その姿はかつての威容を偲ばせる。天正19年(1591)に新井家の先祖新井弥左衛門が、荒れ果てた広田村の開発者として入植する以前から広田村を見つづけてきたものと思われる。広田村開発の記念碑的存在である。

(昭和51年9月20日指定)





おしりょうかいせきひょう  
**忍領界石標**

■屈巢久伊豆神社（屈巢2313）

かつては安養寺と屈巢の境に立っていたもので、忍藩が他領分との境界争いを防ぐため安永9年(1780)に領内16カ所に立てたものの一つである。小松石の角柱で「従是北忍領」と彫られている。高さ133cm、幅30cm。

(昭和53年3月9日指定)



しんぷくじ ふ どうみょうおう  
**真福寺の不動明王**

■真福寺（屈巢3715-1）

江戸時代の木造坐像で、不動明王の半跏趺坐像は全国でも非常に珍しいものである。右手に「降魔の利剣」を持ち、玉眼(水晶)の怖い顔つきに似合わず、体つきは女性的であるのが特徴である。像高60cm、横幅46cm。

(昭和53年3月9日指定)



# 川里地域の指定文化財

ちょうしょうじ だいほんにやきょう  
**長松寺の大般若経**

■長松寺（関新田129）

長松寺の大般若経は、享保9年(1724)に地元有志の手書きによって全600巻が写されたものである。木版ものの多いなか村人が自筆で写経したことは、当時の信仰心の深さを物語るものである。

(昭和53年3月9日指定)



せいほうじ  
**清法寺のまき**

■清法寺（北根1374）

清法寺の創建は、天正年間(1573~1592)で行田市清善寺第5世天州和尚の隠居寺であると伝えられる。清法寺の槇は、樹齢約250年以上と推定されている。幹も枝葉もしっかりしており、威容を誇っている。

(昭和53年3月9日指定)





しんぷくじ こまだんりょうわきづくえ らいばん  
真福寺の護摩壇兩脇机と礼盤

■真福寺（屈巢3715-1）

護摩壇と兩脇机は安永8年(1779)真福寺第7世住職円明の発願により作られたものである。大工は野村(現行田市大字野)の飯塚左次馬とある。礼盤は元文2年(1737)の作である。

護摩壇兩脇机2基 安永八己亥年十月吉

大工 野村 飯塚左次馬 願主 真福寺休隠圓明

施主 屈巢邑 惣壇中 惣村中

礼盤 元文二丁己曆九月吉日

施主 廿三夜講中月並十六日念佛講中 志有縁無縁并且中  
(昭和53年3月9日指定)



ふなづか こせん かめ  
舟塚の古銭と甕

■鴻巣市教育委員会（関新田1281-1）

屈巢舟塚の農地から昭和40年に出土したもので、ほとんどが中国からの渡来銭である。総数は約3万枚で、15世紀から16世紀頃に埋められたようである。また、銭を納めた甕も常滑産の製品で、非常に貴重な資料である。

古銭 渡来銭57種29,623枚。

常滑産甕 口径36.6cm、器高54.4cm。

(平成7年3月23日指定)



きざいじょうしゅおだし はか  
騎西城主小田氏の墓

■雲祥寺（上会下228）

雲祥寺の開基である騎西根古谷城主小田願家おだあいかとその息女の供養塔である。小田願家は常陸国の守護小田氏の一族といわれ、戦国時代に上杉憲政に属し活躍した。右の願家の墓は中世の特徴を残した天文8年(1539)の宝篋印塔で、「当山開基 気憲祥瑞大居士 天文八亥年八月十日」の銘がある。

この天文8年銘の宝篋印塔は高さ112cmで、塔身のみ石質が異なる。隣の息女の墓は慶長13年(1608)銘のものである。慶長13年銘の宝篋印塔は砂岩製で高さ83cm、相輪は後補である。  
(平成7年3月23日指定)





## えんつうじ せきとう いたび ほうきょういんとう 円通寺の石塔（板碑と宝篋印塔）

### ■円通寺（屈巢2110）

正嘉2年(1258)銘の板碑は、川里地域で最古のもので、高さ110cmの阿弥陀一尊種子を表している。「観無量寿経」から抜き出した「光明遍照 十方世界 念仏衆生 攝取不捨」の偈が彫られている。

宝篋印塔は、「新編武蔵風土記稿」に開山の僧の墓と伝えられ、塔に貞治年(1362～1367)銘が刻まれている。川里地域で最古のもので、完全な形ではないが大形でどっしりした威容を誇っている。宝篋印塔の高さは106cmで、「新編武蔵風土記稿」の円通寺の項に「開山の僧を樹上一徹と云う、この僧の墓なりとて境内に古碑あり、文字剝落して全く読がたし、わずかに大工大友光吉、大檀名の文字、及び嘉暦3年(1328)9月の文字等灰に見えたり」とある。  
(平成7年3月23日指定)



## えんつうじ さんじゅうさんかんのん 円通寺の三十三観音

### ■円通寺（屈巢2110）

西国三十三カ所の札所巡りを記念して天保6年(1835)に建立したものである。三十三の変化をして現れるといわれる観世音菩薩の像をすべて浮彫りにしてある。全国的にも珍しく、美術工芸的にも素晴らしい。天保6年銘の三十三観音石塔は高さ128cmの石塔が2基、高さ136cmの石塔が1基で、1基にそれぞれ11軀の観音像が彫られている。土に埋まっている台座に「…奉造立西国三十三所大悲観世音菩薩願主 藤村新五兵衛 妻まち」の銘文がある。

天保11年(1840)銘坂東・秩父巡拝石塔は高さ98cmの石塔が2基で、上記と同じく藤村新五兵衛・まち夫妻が坂東・秩父の札所巡りを記念に造立したものである。  
(平成7年3月23日指定)



## えんつうじ かのんどう 円通寺の観音堂

### ■円通寺（屈巢2160-1）

慶長年間(1596～1615)に建立された。江戸近郊で観音像などを祀る三間堂としては、保存状態もよく軒を除いて総檜造りの格調の高い仏堂である。面積は60.05㎡である。

埼玉県内でも、これだけ質の高い三間堂の例はほとんどないと思われ、馬頭観音の民間信仰の強さを思わせる。そして、この建物を詳細に分析することにより、江戸の前期から中期の建物の持つ雰囲気がとても良く体験できる。また、これだけ質の高い建物がこの地に庶民の力によって建立されたことも、大きな価値である。

(平成13年3月28日指定)





えんつう じ かのんどう もくぞう ばとうかん ぜ おん ほ さつ ざ ぞう  
円通寺観音堂の木造馬頭観世音菩薩坐像

■円通寺（屈巢2160-1）

木造、玉眼、漆箔、<sup>しっぽく</sup>眉鬘<sup>まげすみでさ</sup>搗で本面の上に馬頭印を載せ、髪は怒りのために逆立つ怒髪<sup>こはつ</sup>の形を表している。製作は江戸時代中期とされる。

顔は本面の左右にそれぞれ一つの脇面が付く三面である。本面の目は三つ、脇面はそれぞれ二つである。本面は口を開き、上牙で憤怒の様相を示し、脇面の口は一文字に結んでいる。腕は八本で、本手の二本で印を結び、左右の脇手はそれぞれにものを持つ。足は右膝を立てて、左足裏に重ねる輪王坐という形をして、蓮華座に坐っている。坐高58.3cm。

（平成13年3月28日指定）



えんつう じ かのんどう もくぞう しんめ  
円通寺観音堂の木造神馬

■円通寺（屈巢2160-1）

木造、玉眼、彩色で布・和紙を張り、丸みをだすためにおがくずで下地を固めている。製作は江戸時代後期である。

左像高：119cm 尻高：76cm たてがみは失われている。

中像高：101cm 尻高：72cm 耳、たてがみは失われている。

右像高：76cm 尻高：51cm 耳、玉眼、たてがみは失われている。

（平成13年3月28日指定）



あら い になりじんじゃ さんかく  
新井稻荷神社の算額

■新井稻荷神社（新井226-1）

江戸時代に発達した日本独特の数学を和算という。埼玉郡種足村（騎西町）の関流の都築利治（1834～1908）を師とした田村金太郎（旧共和村新井）が難しい問題を解いた成果として奉納したもので川里地域に残る唯一のものである。明治25年（1892）9月1日奉納（平成13年3月28日指定）



鴻巣の文化財 第9号 川里地域の指定文化財

平成21年3月10日

編集・発行 鴻巣市教育委員会